

コンスタンティン

2005(平成17)年5月4日鑑賞(ナビオ TOHO ブレックス)

★★★★



監督＝フランシス・ローレンス／出演＝キアヌ・リーブス／レイチェル・ワイズ／ティルダ・スウィントン／シア・ラブーフ／プルイット・テイラー・ビンス／マックス・ベーカー／ジャイモン・フンスー／ギャビン・ロズデイル (ワーナー・ブラザーズ映画配給／2005年アメリカ映画／121分)

……若者に大人気の『マトリックス』のキアヌ・リーブスが次に挑戦したのは、アメリカのコミック誌で有名なジョン・コンスタンティンというキャラクター。彼は、人間の姿に偽装する天使や悪魔、そしてハーフ・ブリードと称される完全な天使でも完全な悪魔でもない使者たちを見分けられる特殊能力の持ち主。しかし、そのために背負う苦勞も並大抵のものではなかった。天国と地獄のお話やその登場人物たちは興味深く、『マトリックス』嫌い(?)の私も十分納得できる面白いストーリー。ひょっとすると、私が昨日見たあの変なおやじも、地獄からの使者ハーフ・ブリードでは……？

ジョン・コンスタンティンとは？

ハーフ・ブリードとは完全な天使でも完全な悪魔でもない、天国と地獄からの使者。そして、ジョン・コンスタンティン(キアヌ・リーブス)とは、人間の姿に偽装する天使や悪魔のハーフ・ブリードを見分けられる特殊能力をもって生まれた男、つまり境界線の魔術師というわけだ。コンスタンティンの「産みの親」は、『フロム・ヘル』(01年)、『リーグ・オブ・レジェンド／時空を超えた戦い』(03年)等の原作者として有名なアラン・ムーア。彼がこのキャラクターを1985年アメリカのコミック誌「サガ・オブ・スワンピング」に登場させた。そしてコンスタンティンをソロで活動させた「育ての親」が、同じくアメリカのコミック誌「ヘルブレイザー」を手がけた、ジェイミー・ディラーノ。これによってコンスタンティンのキャラクターが確立されたうえ、その後1990年代にはさまざま

な作家によって次々とそのキャラが豊かにされ、物語もふくらんでいったというわけだ。これらの詳細はパンフレットの「原作『ヘルブレイザー』解説」や「ジョン・コンスタンティンの作者たち」を参照してもらいたい。

一体どんなストーリー？

分厚いパンフレットながら、その中で物語の解説はわずか数行のみ。コンスタンティンは、この世に徘徊する悪魔のハーフ・ブリードを見つけ出しては、これを次々と地獄へ送り返す日々。これを応援するのが、コンスタンティンの数少ない友人の1人であるヘネシー神父（プリット・テイラー・ピンス）。彼もかつてはタフで生命力あふれる聖職者だったが、今では悪魔との闘いに疲れ果て、酒におぼれ、ささいな悪魔祓いの儀式さえコンスタンティンに頼っている状態。そのため、今日も彼の依頼でコンスタンティンは悪魔祓いのお仕事を……。

他方、双子の美人刑事アンジェラ・ドッドソン（レイチェル・ワイズ）の妹イザベル・ドッドソン（レイチェル・ワイズが2役）が自殺。キリスト教では自殺は大罪。なぜイザベルはそんなことを……？ それを探っていくうち、アンジェラはいつのまにかコンスタンティンとの接点を……。

人間社会には天使も悪魔も入り込んでいたし、完全に天使でもなく完全に悪魔でもないハーフ・ブリードもたくさん入り込んでいたが、その微妙なバランスの上に成り立っていた。しかし今、それが揺るぎはじめてきたことをコンスタンティンは感じざるをえなかった。それはなぜ？ そして誰の手によって……？

ルシファーとマモン、そしてバルサザールとは？

ルシファー（＝サタン）とは、すべての悪魔の頂点に君臨する者のこと。そしてマモンはこのルシファーの息子。このマモンが、偉大な父親の支配に我慢できず、自分の王国をつくらうと企んだことが、人間社会の微妙なバランスを崩すきっかけになったわけだ。バルサザール（ギャビン・ロズデイル）はサタンの使者であり、地獄からのハーフ・ブリード。彼は人間社会においては人間の姿形をしているため、通常の間人は本性を見抜けないが、コンスタンティンは別。

クラブ「ミッドナイト」とコンスタンティンの友人たち

クラブ「ミッドナイト」は、文字どおりミッドナイト（ジャイモン・フンスー）が経営しているナイトクラブ。そしてこのミッドナイトはかつては祈祷師で信仰療法師だったが、今では実業家として成功している人物。彼は天国と地獄からの中立を宣言し、ハーフ・ブリードが自由に入ることができる聖域として「ミッドナイト」を提供している。コンスタンティンはこのナイトクラブの常連客だが、それはバルサザールも同じ。人間界のバランスを崩そうとしている動きのヒントをバルサザールが知っていると感じたコンスタンティンは、「ミッドナイト」を訪れて、バルサザールを詰問しようとしたが、ミッドナイトが「店内での争いは許さない!」と強く宣言したため、争いはしばし中断。しかし……？

コンスタンティンの基本的なキャラは前記のとおりだが、その性格は反逆児であり、はぐれ者。したがってその友人はいたって少なく、その1人が前述のヘネシー神父。しかしその他にも、コンスタンティンを師と慕っている青年チャズ・クレイマー（シア・ラブーフ）がいるし、歴史学者であらゆる方面に造詣が深く、さまざまな「宗教的」道具や武器にも通じているピーマン（マックス・ベイカー）がいる。コンスタンティンが人間界における天国と地獄の正常なバランスを回復するためには、彼らの知識や協力が不可欠だが……。

ガブリエルとは？

ガブリエルは大天使と呼ばれる天使で、地上における神の代行者であり、神の門番。またガブリエルは、ミカエル・ラファエル・ウリエルと並ぶ4大天使の1人であり、知恵や慈悲、約束を司る天使。

このガブリエルが有名なのは、マリアの純潔を象徴する白百合の花を持って、天上からイエス・キリストの懐妊をマリアに伝えるガブリエルの姿を描いた、エル・グレコ作の「受胎告知」の絵。羽をつけたこのガブリエルはこの映画では女性として描かれているが、それがホントかどうかは……？

コンスタンティンは、早く自分のヤクザな稼業（？）から足を洗いたいとガブリエルに頼み込んだが、ガブリエルはコンスタンティンにはまだまだやってもら

う仕事があるとしてこれを拒否。そして、このガブリエルの期待どおりコンスタンティンは大仕事をこなしていくのだが、ガブリエルはその中で意外な役割を……？ いろいろな登場人物たちにそれぞれうまく役割分担をさせるものだと、この映画の原作者や脚本家にはホトホト感心……？

その他有用な(?) 知識がいっぱい!

以上はこの映画を観るうえで最低限必要な登場人物を中心とした基礎知識。しかしこれ以外にも、これを機会に聖書にもとづくさまざまな知識を勉強しておけば、この映画の理解のためには絶対オトク!

その最大のポイントは「運命の槍」。これはイエス・キリストが十字架で磔にされた時に使用された槍で、「この聖槍の所有者は世界を征服することができる」という伝説があるとのこと。そして、その話に絡んで、あのヒットラーをはじめとするいろいろな人物が……？ その他、聖書の地獄版(?)で、本来の17章までの他21章までバージョンアップ(?)された「地獄の聖書」のお勉強も。さらに「聖水」「メリケンサック」など、この映画を理解するために勉強すれば有用な(?) 基礎知識がいっぱい! パンフレットを買ってこれらを勉強すれば、あなたもたちまち、天使と悪魔に関する専門家に……?

『マトリックス』より数段マシ……?

『マトリックス』シリーズ(99~03年)は若者に大人気だが、いつも言ってるように私はこれが大キライ! それは多用されるCGやワイヤー・アクションがあまり好きでないこともあるが、最大の理由はあまりにも不自然な物語のつくり方と展開の仕方。もちろん、これだってちゃんと基礎から勉強すればわかるはずだし、それなりに納得できるストーリーであることは認めるものの、超魔界のお話(?)についていく気がしないのは、やはり私がトシをとったせい……?

『マトリックス』に比べるとこの『コンスタンティン』のストーリーは筋が通っており、よくわかる。そしてまた大いに勉強になる。人間社会が天国と地獄の微妙なバランスの上に成り立っていることを見抜くとは、何たる慧眼……? 完全な天使でも完全な悪魔でもないハーフ・ブリードが人間社会の中にいるという

のも、実によくわかる話。ひょっとして、私の周りにもうじゃうじゃいるのでは？ 昨日、映画館で見たあのケツタイな家族連れの客も、ひょっとして……？

ところでパンフレットには、北村龍平監督も「声を大にして言おう。俺は『マトリックス』より断然好きだ」と書いてあったから、私と同じ感覚……？

映像と美術はさすが！

この摩訶不思議なストーリーの面白さを観客に納得させるためには、映像と美術の高度な技術が不可欠。この映画が示す地獄の絵はなるほど納得できるもの……？ また悪魔が人間の中に入り込もうとしている姿や、逆に悪魔祓いの儀式によって人間の体から悪魔を追っ払おうとする姿もそれなりのリアリティがあって納得できるもの……？ また、聖水によってハーフ・ブリードたちを攻撃するシーンや「聖なるショットガン」をハデに撃ちまくるシーン、さらに「境界線の魔術師」であるコンスタンティンが行う水を使ったさまざまな儀式なども、『マトリックス』ほど突拍子もないものではないため、十分納得できるもの……？

しかし、私がこのようにすべて納得できるのは、ストーリー構成もさることながら映像と美術の技術によるものが大……？

興味は興行収入だが……

パンフレットによれば、この映画はキアヌ・リーブスが「次の『マトリックス』として選んだ唯一無二の作品」とのこと。そして現在の大阪の状況を見る限り、若者パワーを基礎とするこの映画の観客動員はそれなりに順調な様子だが、私の印象では、オバちゃんパワーを基礎とするイ・ビョンホン主演の『甘い人生』に負けている感じ。ところで、『キネマ旬報』2005年5月下旬号（1429号）には、『コンスタンティン』は全国約350スクリーンで公開され、初日・2日間で4億2千万円の興収をあげた。最終的に20億円超は堅いところで、ハリウッド大作では『ナショナル・トレジャー』と共に大台に乗せたことになる。これをハリウッド映画の底力とするのか、20億円程度の伸び悩みとするか、評価は分かるところだろう」と書かれてあったが、この予想どおりだとすれば、『マトリックス』には遠く及ばないことになるが、さて……？ 2005(平成17)年5月6日記